

ウィズコロナ社会での文化財をめぐる国際交流

新型コロナウイルス感染症が世に知られてから1年余り、この間、私たちが本務とする文化財の調査や保護のための国際交流のあり方には、大きな変化がありました。従来おこなってきた海外の様々な調査・修復現場での活動や、国際会議での各国の専門家との意見交換が、一切できなくなってしまったのです。

当初は渡航の再開を期待しつつ、現地での作業を遅らせて対処をしましたが、初夏には「海外に渡航しない国際交流」へと舵を切らざるを得なくなりました。様々な事業をすべてオンラインでおこなう、という方針です。例えば、文化庁の委託による「カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業」については、事前に教科書をデータで配信した上でのオンラインセミナーを2度、開催しました。

もちろん、オンラインでの交流は、対面でおこなうものと同等ではありません。しかし、限界にばかり目を向けているよりは、むしろオンラインならではの利点を考えるほうが生産的です。例えば、上記のセミナーには、広大な面積をもつカザフスタンの各地から、多くの研究者が参加してくれました。移動距離やコストを考えると、対面でのセミナーではこれは難しかったでしょう。カザフスタン国内の研究者間での情報交換が進んだ、という嬉しい感想も聞かれました。

私たちは今後も、今できることを最大限におこない、日本の技術の海外移転や、学術交流を通じた国際親善の促進に努めていきます。

(企画調整部 庄田 慎矢)



オンライン会議システムを利用したカザフスタン国立博物館との技術移転セミナー